

いわて6次産業化推進プラン【概要】

6次産業化の現状

- 加工分野を中心に6次産業化の取組が進展
- 産直の販売額は、近年、増加傾向にあり、6次産業化による販売額の約6割を占有
- 6次産業化に取り組む事業者数は伸び悩み

6次産業化による販売額(百万円)

年度	H25	H26	H27	H28
農業生産関連事業	22,391	25,168	27,003	28,223
農産物の加工	7,214	7,255	8,122	7,644
農産物直売所	14,051	16,773	17,694	19,319
漁業生産関連事業	1,537	1,851	2,853	2,087
合計	23,928	27,019	29,856	30,310

総合化事業計画の認定件数(件)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計
	14	20	9	4	0	3	1	51

今後の課題

- **6次産業化を担う人材の確保・育成**
担い手の減少や高齢化に対応した、次世代の担い手としての新規参入や若者、女性の取組を促進
- **魅力ある商品開発や加工・販売のスキル・ノウハウの向上**
消費者や実需者のニーズの収集・把握に努めるとともに、地域ぐるみの取組を促進
- **販路の開拓・確保と安定した取引**
商品の特性に応じた多様な販売先との商談機会を創出
安定取引のため、生産～加工～流通～消費に至る各段階の付加価値を繋ぎ合わせるバリューチェーンを構築
- **6次産業化による多様なビジネス展開や事業の拡大**
将来ビジョンを明確化した事業計画の立案と着実な実施
地域資源を活用した多様なビジネス展開や、農商工連携の促進による事業の拡大・成長
- **産直施設を核とした地域ぐるみの取組**
産直の販売力を強化し、店舗での直売に加えて新たな食材供給先の開拓等の取組の強化と活性化

県内の取組事例【地域特産品を使用した商品開発】



県北3町村の特産品を使った「いわて県北三大麺」を地域ぐるみで開発



花巻温泉郷の旅館と地元農家が一体となり「はなまき」の魅力を発信する商品を開発



いわて短角牛の消費拡大とラグビーを盛り上げるため肉まんを開発

目指す姿

- 農林漁業者だけでなく、多くの地域関係者が協働して企画・開発に取り組み、地域の特色ある農林水産物を生かし、魅力的な商品や料理・サービスが次々と生み出されている。
- これらの商品等が産直をはじめ、小売店、飲食店、宿泊施設など、地域のあらゆる場で販売・提供され、楽しいイベントも開催されている。
- こうした取組が地域の内外に反響を呼び、多くの来客につながり、地域に暮らす若者等は、自らの地域を誇りに感じ、次代の新たな担い手になろうと励んでいる。

基本方向

県・市町村・関係団体の協働により、地域ぐるみで6次産業化を推進するため、地域の生産者や商工業者等の一体的な動きを活性化させ、地域の多彩な農林水産物を活用した生産者の思いやこだわりを積極的にPRするなど、販路拡大と地域のブランド価値の向上に取り組めます。

〔計画期間：2019年から2022年まで〕

◎ 成果目標

6次産業化による販売額

現状値 [2018年度]
⑩303億円



目標値 [2022年度]
⑪385億円

※指標には丸囲みの数値の年度を用いる（例：⑪は2021年度）



協働と役割分担

- **県の役割**
 - ・ 市町村等との協働による地域ぐるみでの6次産業化の推進
 - ・ 専門家の派遣や、交流・商談機会の提供及び拡充
 - ・ 地産地消の推進・普及啓発
 - ・ 県産農林水産物の国内外への販路開拓等の支援
 - ・ 専門家の活用による経営者等のスキルアップの支援
- **市町村の役割**
 - ・ 生産者等との協働による地域ぐるみでの6次産業化の推進
 - ・ 6次産業化の実践支援、交流・商談会等への参加支援
 - ・ 地産地消の推進・普及啓発
 - ・ 県産農林水産物の販路開拓等の支援
- **生産者・団体・企業等への期待**
 - ・ 6次産業化の実践・連携・協力、交流・商談会等への参加
 - ・ 地産地消の推進
 - ・ 県産農林水産物の販路開拓等

具体的な取組内容

1 次世代の担い手の確保・育成

- ① 商品開発や販売等に意欲的な若手・女性グループに対し、商品開発等を通じて活動の活性化を促進
- ② 担い手の掘り起こしや育成を進め、生産者と商工・観光業者等の交流機会の提供による活動の活性化や、地域おこし協力隊など多様な主体との連携を支援
- ③ マーケティングに関するセミナーの開催や商談会への参加誘導等を通じ、経営者等のスキルアップを支援
- ④ 大学等と連携し、本県農業をけん引する先進的な経営体を育成するためマーケティング能力向上と販売チャネル拡大等を支援

2 地域ならではのストーリー性や発信力のある特産品開発の推進

- ① 農林水産物を生かし、消費者や実需者のニーズに対応した、ストーリー性や発信力のある商品開発等を地域を挙げて支援
- ② 地域の生産者と商工業者等の一体的な動きを興し、特産品開発や料理メニュー提供など、多様な取組を支援
- ③ 商品力が向上する商品デザインの取組を支援
- ④ 若者や女性の感性・能力を生かした農山漁村ビジネスの創出に向けた取組を支援

3 販路の開拓・拡大とバリューチェーンの構築

- ① 発信力ある特産品開発等を促進するとともに、農商工連携を深化させ、より付加価値を高めながら消費までつないでいくバリューチェーンの構築に向けた取組を促進
- ② バイヤー等を招へいした産地見学会や商談会等により販路開拓を支援
- ③ HPやSNS等を活用した訴求力の高い情報発信を支援するとともに、地域の「食」や特産品にかかるストーリーの発信や体験の受入れ、生産者・事業者との交流を図る仕組を創出

4 6次産業化による事業の拡大・成長

- ① 事業計画の作成や各種制度等を活用した経営の実践など、経営の発展段階に応じたきめ細かな支援の継続
- ② 契約栽培の促進や地域商社の活用など新たな流通の仕組みづくりを支援
- ③ 新たな物流網の構築や、「共同配送システム」の拡充、「貨客混載物流システム」の本格実施等により、低コスト物流の構築を促進

5 食の拠点機能の強化等による地域ぐるみの取組の促進

- ① 産直施設の強化に向け、宿泊施設や飲食店等への食材供給、通信販売、レストランや体験農園等の多角的な取組を支援
- ② 「食」を核とした特産品の開発や、多様な歴史や文化等と融合したフードツーリズムの取組を推進
- ③ 産直施設から学校給食や医療・福祉施設への食材供給などによる農林水産物の地域内消費拡大を促進